

エコアクション21

環境経営レポート

対象期間: 2021年4月～2022年3月



発行日 2022年 8月 1日
作成者 飯塚 宣人

目次

表紙	P1
目次	P2
Ⅰ．会社概要・事業内容	P3
Ⅱ．環境経営方針	P4
Ⅲ．環境経営活動実施体制	P5
Ⅳ．環境経営目標	P6
Ⅴ．実績	P7 ～
Ⅵ．次年度の活動計画	P12 ～
Ⅶ．環境関連法規への違反、訴訟等の有無	P14
Ⅷ．代表者による全体評価と見直しの結果	P15

I. 会社概要・事業内容

(1) 事業者名及び代表者名

日本包装システム 株式会社

代表取締役社長 池畠 正英

(2) 所在地

本社工場 〒379-2153 群馬県 前橋市 上大島町 182

共同工場 〒379-2154 群馬県 前橋市 天川大島町 1310-4

(3) 環境管理責任者及び事務局

EA-21責任者： 管理部 飯塚 宣人

EA-21事務局： 管理部 小宮 由香利

連絡先 TEL： 027-261-4455

FAX： 027-261-4456

E-mail： n.iiduka@nhs-1972.co.jp

(4) 事業活動の内容

紙製容器・包装資材の開発、製造および販売

(5) 事業規模 (2021年度)

主要製品の生産量： 1123 t

売上高： 629百万円

資本金： 6,000万円

従業員数： 45人

延べ床面積： 3,715.03m²

(6) 対象範囲（認証・登録範囲）

上記 (2) に該当する所在地と (4) に該当する活動内容

Ⅱ. 環境経営方針

環境経営方針

日本包装システム株式会社は、私たちの未来のため、
循環型社会の実現と環境負荷の低減を推進します。

1. 当社は事業活動を通じて、環境マネジメントシステムを構築し、環境目標・環境活動計画を定め全員参加で継続的な改善に努めます。
2. 環境関連の法令、規制を遵守するとともに、行政・団体・地域との協力体制を確立します。
3. 当社は環境に与える影響を考慮し、次の事項に対して優先的に取り組みます。
 - ① エネルギー使用量・水資源使用量の削減
 - ② 廃棄物の削減とリサイクルを目的とした分別回収
4. 当社は文化的生活の向上と環境負荷低減の両立を目指し、安全で効率のよい生産活動を追求します。
5. 社会の一員として環境保全に関する啓蒙・啓発に努めます。

この環境方針は当社全従業員に周知徹底するとともに、一般に開示します。

2009年4月1日
改定日 2016年4月1日
改定日 2018年4月1日

日本包装システム株式会社

代表取締役社長

池 島 正 英

Ⅲ. 環境経営活動実施体制

代表者(社長)	1. 環境経営方針の策定 2. 経営資源の準備 3. 代表者による全体の評価と見直し 4. 環境経営レポートの承認 5. 環境目標及び環境経営活動計画の承認 6. 経営における課題とチャンスの明確化	
池畠 正英		
EA-21責任者	1. EA-21システムの確立、実施推進、維持管理 2. 環境への負荷及び取組への自己チェックの実施 3. 環境経営目標及び環境活動計画の策定 4. 環境経営レポートの作成 5. EA-21に関する実績把握と報告 6. EA-21環境経営マニュアルの作成	
飯塚 宣人		
製造部	田島 和憲	1. 環境経営活動計画の実施 2. 問題点の是正処置
営業部	小貫 敦	1. 環境経営活動計画の実施 2. 問題点の是正処置
品質管理部	森 克美	1. 環境経営活動計画の実施 2. 問題点の是正処置
管理部	高橋 正利	1. 環境経営活動計画の実施 2. 問題点の是正処置
EA-21委員会		1. 環境経営目標及び環境経営活動の結果確認 2. EA-21に関する審議
委員長：池畠 正英 飯塚 宣人・小宮 由香利・竹内 恵子 松本 宏志・蒔苗 徹・鈴木 寿晴・岡田 美幸		
EA-21事務局		1. EA-21責任者の補佐業務 2. 環境関連法規の取りまとめ及び遵守状況確認 3. 教育、訓練計画の策定・実施（緊急時対応訓練 等） 4. 環境文書及び記録の作成、管理 5. その他EA-21に関する業務
小宮 由香利		

	人員
役員	2 名
管理職	7 名
一般	28 名
パート・人派	8 名
合計	45 名

2021年4月現在

	人員
役員	2 名
管理職	7 名
一般	28 名
パート・人派	8 名
合計	45 名

2021年4月現在

Ⅳ. 環境経営目標

当社の環境目標の設定は、2020年度のデータを基準として2021～2023年度の目標といたしました。

「燃料使用量の削減」については本社工場・共同工場扱いにてそれぞれ車両を区別、工場別に実績管理をしていましたが、今年度より本社工場一括の管理となり、工場別の数値を合計して算出、表示しています。

「化学物質使用量の削減」については年間使用量が少ない為、定期的に管理状況・保管状況の確認を「薬品保管管理表」にて行っています。

「グリーン購入の推進」については、「自らが生産・販売・提供する製品、及びサービスに関する環境目標」内に統合して継続して活動していきます。

取組項目	2020年度実績		2021年度	2022年度	2023年度
電気使用量の削減	本社	CO2換算 3.27kg/万円	1%削減	1%削減	1%削減
	共同	CO2換算 2.29kg/万円			
燃料使用量の削減 営業車使用燃料 (ガソリン・軽油)		CO2換算 0.297kg/万円	2%削減	2%削減	2%削減
廃棄物の削減 ① (古紙回収)の削減	本社	一万円あたりの使用量 4.38kg/万円	実績維持	実績維持	実績維持
	共同	一万円あたりの使用量 6.94kg/万円			
廃棄物の削減 ② (廃プラ)の削減	本社	一万円あたりの使用量 0.065kg/万円	実績維持	実績維持	実績維持
	共同	一万円あたりの使用量 0.049kg/万円			
廃棄物の削減 ③ (鉄・ガラス・その他)の削減	本社	一万円あたりの使用量 0.028kg/万円	実績維持	実績維持	実績維持
	共同	一万円あたりの使用量 0.006kg/万円			
水資源使用量の削減	本社	一万円あたりの使用量 0.012m³/万円	実績維持	実績維持	実績維持
	共同	一万円あたりの使用量 0.010m³/万円			
自らが生産・販売・ 提供する製品、及び サービスに関する 環境目標	次年度の活動計画にて掲げた施策の実行と継続				
化学物質使用量 の削減	_____		_____	_____	_____

V. 実績

環境目標に対する達成状況は以下の通りです。

- ※1. 実績値は、2021年度運用期間(4月～3月)の1年間と、基準年度2020年度の同月の値と比較する。
- ※3. 総量は4月から3月の1年間の合計とする。
- ※4. 単位は、売上金額1万円当たりの使用量とする。
- ※5. 購入電力(東京電力)の二酸化炭素排出係数は0.475。
- ※6. ガソリンの二酸化炭素排出係数は2.32。
- ※7. 軽油の二酸化炭素排出係数は2.58。

実績 一覧

本社工場	2020年度基準値	2021年度実績値	達成率	結果
電気使用量の削減	3.27kg/万円	2.81kg/万円	116.37%	○
燃料使用量の削減	0.297kg/万円	0.245kg/万円	121.22%	○
廃棄物(古紙回収)の削減	4.38kg/万円	4.68kg/万円	93.58%	×
廃棄物(廃プラ)の削減	0.065kg/万円	0.054kg/万円	120.37%	○
廃棄物(鉄・ガラス等)の削減	0.028kg/万円	0.009kg/万円	311.11%	○
水資源使用量の削減	0.014m ³ /万円	0.012m ³ /万円	116.66%	○

○ 達成 × 未達成

共同工場	2020年度基準値	2021年度実績値	達成率	結果
電気使用量の削減	2.29kg/万円	1.75kg/万円	130.85%	○
廃棄物(古紙回収)の削減	6.94kg/万円	5.38kg/万円	128.99%	○
廃棄物(廃プラ)の削減	0.049kg/万円	0.041kg/万円	119.51%	○
廃棄物(鉄・ガラス等)の削減	0.006kg/万円	0.001kg/万円	600.00%	○
水資源使用量の削減	0.010m ³ /万円	0.007m ³ /万円	142.85%	○

※前年度 環境レポートの実績数値が間違っていましたので訂正致します。

本社工場 「廃棄物(鉄・ガラス等)の削減」 (誤)0.03kg/万円 → (正)0.028kg/万円

本社工場 「水資源使用量の削減」 (誤)0.012kg/万円 → (正)0.014kg/万円

主な環境負荷実績(総量)

環境への負荷	2020年度(基準年)	2021年度(対象年度)
Co2排出量(Kg-Co2)	147,877	143,288
廃棄物排出量(t)	240	262
水使用量(m3)	567	548

電気使用量の削減

計画(本社工場・共同工場 統一計画)	結果	次年度	評価
取り組み施策の発表(5月)	◎	継続	前年度より生産量が増加、更に夏の暑さによるエアコン稼働と、電力使用量は増加となりました。新型コロナウイルス対策の空気循環を講じつつ、生産活動とエアコン使用の両立という難しい課題が突き付けられてきます。
未使用の電気、電源のOFF	○	継続	
エアコン温度の設定	○	継続	
トイレ便座の温度設定	○	継続	
エアータオル就業時間外の電源OFF	-	継続	
空調フィルターの定期清掃	◎	継続	
デマンド監視装置の活用	△	継続	

◎良くできた ○出来た △あまり出来なかった ×出来なかった

燃料使用量の削減

計画(本社工場・共同工場 統一計画)	結果	次年度	評価
取り組み施策の発表(2月)	◎	継続	前年度よりも使用量は減少となりました。売上内容、人員構成の変化によりトラックの使用率が減少した事が原因の一つと考えます。引き続き、運転時にエコドライブの意識と実践を基本とします。
燃料使用量・走行距離チェック	◎	継続	
エコドライブ診断の実施	×	継続	
エコドライブ講習会への参加	×	継続	

廃棄物(古紙回収)の削減

計画(本社工場・共同工場 統一計画)	結果	次年度	評価
取り組み施策の発表(6月)	◎	継続	本社は廃棄量が増加、共同工場は逆に減少。前年度の数値は新型コロナウイルスの影響により極端に減少しましたが、今年度は生産量も戻ってきたことで数値結果は対照的な結果となりました。
分別廃棄の継続	◎	継続	
私物ゴミ持ち帰りの徹底	◎	継続	
調整時ロスの削減	△	継続	
ロスの早期発見と対応	○	継続	

廃棄物(廃プラ)の削減

計画 (本社工場・共同工場 統一計画)	結果	次年度	評価
取り組み施策の発表(8月)	◎	継続	廃棄マニフェストは電子化実施。ストレッチフィルム廃棄量の増加傾向は変わらず。減少の為の施策も打ち出せていません。ブランク納品時のプラパレ化は継続して依頼実施。新規案件時にも忘れずにアプローチしています。
資源ゴミと一般ゴミの分別の徹底	◎	継続	
ブランク納品時のプラパレ化を依頼	◎	継続	

◎良くてきた ○出来た △あまり出来なかった ×出来なかった

廃棄物(鉄・ガラス等)の削減

計画 (本社工場・共同工場 統一計画)	結果	次年度	評価
取り組み施策の発表(10月)	◎	継続	木製パレット・木くずの処理は問題なく対応出来ています。蛍光灯の廃棄管理に関しては廃棄場所設定後、問題なく廃棄出来ています。共同工場では鉄・ガラスの廃棄がきわめて少量でした。
木製パレット・木くずの適正処理	◎	継続	
廃棄蛍光灯の管理徹底	◎	継続	

水資源使用量の削減

計画 (本社工場・共同工場 統一計画)	結果	次年度	評価
取り組み施策の発表(12月)	◎	継続	本社工場は前年度よりも生産量が増加となり実績使用量は増加しました。共同工場は製函機の稼働増加にも関わらず実績使用量は減少。節水意識向上の効果も減少の要因と考えます。
節水継続意識向上の継続	○	継続	
手洗い・糊つぼ洗い時に水を止める。	○	継続	
本社 成型工場、共同 2階洗い場の蛇口レバーを長い形状のものへ変更(検討)	×	継続	

環境保全取組実施率の向上

① 管理者・従業員の教育

- ・毎月初日に全社員が集まる全体ミーティングを実施しています。
- ・全体ミーティング内ではエコアクション活動の発表の他に、生産技術課による技術向上を目的とした取り組みを発表しました。



＜全体ミーティングの一例＞



＜生産技術課の発表の様子＞

- ・アース環境サービス社様による「防虫・衛生・品質関連」の講習を行いました。(7月)
- ・安全・衛生委員会による業務中における事故発生の予防を目的とした取り組み(工場内の見廻りと危険個所の発見、その対応)を発表しました。(10月、1月)



＜講習の様子＞



＜安全・衛生委員会の発表の様子＞

- ・昨年に続き、9月1日に実施予定であった避難訓練(火災を想定)は、新型コロナウイルスによる集団感染を避ける為に実施出来ず、代替として災害発生を想定した避難活動時に注意すべきポイントや具体例などの説明しました。
更に近年被害が拡大している「台風の大型化」や「ゲリラ豪雨」、「線状降水帯」などの自然災害についても併せてレクチャーしました。こちらは社内に限らず、社外時にも有効なポイントや情報収集の重要性、事前の備え(避難開始の基準や避難場所の確認、連絡方法の確立)などを併せて説明しました。
 - ・11月の全体ミーティングでは、「SDGs」について理念や内容、取り組みについて説明を行いました。エコアクション21での活動は最終的には「SDGs」に繋がっている事を全社員にレクチャーし、共通の認識としてもらいました。
- ② その他、入口に「アイドリングストップ」の表示をして、当社出入りの業者さんに対して環境保全活動の協力依頼をしています。

その他の環境への取り組み事例



① 本社工場 高圧PASの交換



② 本社工場 旧事務所棟 屋上看板の撤去



③ 本社工場 トレー工場 配電盤交換



④ 本社工場 トレー工場 床面塗装

★2021年度に行った環境への効果が見込める取り組み★

- ① 本社工場 高圧PASの交換 (危機管理)
- ② 本社工場 旧事務所棟 屋上看板の撤去 (危機管理)
- ③ 本社工場 トレー工場 配電盤交換 (省電力化)
- ④ 本社工場 トレー工場 床面塗装 (生産効率化)
- ⑤ 専門業者による生産機械の定期点検を年間スケジュール化して実施。(省電力化)

FSC® COC認証の取得

「FSC COC認証」を2018年3月9日に取得後、2021年は新型コロナウイルスによる影響で、先行きが不安定の傾向であったにも関わらず前年度と同数程度の取り扱い件数となりました。本活動は、近年クローズアップされている「SDGs」に連なる動きと認識して、エコアクション21の活動と同様に取り組んでいきます。

＜弊社FSC認証情報＞

認証登録番号 : SA-COC-006218
 ライセンス番号 : FSC® C140095
 認証発行日 : 2018年3月9日
 有効期限 : 2023年3月8日



化学物質使用量の削減

定期的(7月・11月・3月)に保管場所と管理方法の確認を行いました。

VI. 次年度の活動計画

当社は、環境への負荷を低減するために、以下の活動を実施していきます。

(1) 電気使用量の削減

- ・未使用の電気、パソコンモニタの電源OFF
- ・エアコン温度の設定
- ・トイレ便座の温度設定(夏季：OFF、冬：ON)
- ・空調フィルターの定期清掃
- ・デマンド監視装置活用によるピークカット
(季節ごとに1時間毎に数値を測定)
- ・電気管理業者のサポートによる使用電力削減
- ・電気使用量の削減の取り組み発表(8月)

(2) 燃料使用量の削減

- ・燃料使用量・走行距離チェック(3カ月毎)
- ・燃料使用量削減の取り組み発表(2月)

(3) 廃棄物の削減(古紙回収)

- ・新基準指標の検討(歩留り率使用の検討)
- ・分別廃棄の継続(本社工場・共同工場)
- ・私物ゴミ持ち帰りの徹底
- ・不良率の削減
調整時ロスの削減
ロスの早期発見と対応
- ・不良率低減の取り組みを発表(5月)

(4) 廃棄物の削減(廃プラ・鉄・ガラス他)

- ◎廃プラ／鉄／ガラス他 共通事項
 - ・資源ゴミと一般ゴミの分別の徹底
(一般ゴミ内の資源ゴミ混入防止の徹底)
 - ・廃棄物の削減の取り組みの発表(10月)
- ◎ガラス他
 - ・使用済み蛍光灯の廃棄・管理の徹底
 - ・ブランク納品時、プラパレでの納入を依頼

(5) 水資源使用量の削減

- ◎本社工場
 - ・節水意識向上の継続
(手洗い・糊つぼ洗い時に水を止める)
 - ・成型工場の蛇口レバーを長い形状のものへ変更検討
- ◎共同工場
 - ・節水意識向上の啓蒙啓発
 - ・2階手洗いの蛇口レバーを長い形状のものへ変更検討
 - ・水資源使用量削減の取り組み発表(12月)

(6) 環境保全取組実施率の向上

- ・毎月1日に全体ミーティングにてEA21の取り組み発表や環境教育等を実施
- ・部門別責任者と担当者の発表、年間スケジュールの発表（4月）
- ・アース環境サービス社様による「防虫・衛生・品質関連」の講習を予定（6月）
- ・避難訓練「火災防火訓練」（9月）
- ・緊急事態対応訓練の実施（11月）
- ・施策の成果と反省（3月）

(7) 自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する環境目標

- ・新製品の設計を行う際に効率的で無駄の少ない割り付けを心掛け、原紙のロスを軽減します。
- ・新製品を生産する際に、環境に配慮した材質、リサイクルが可能な材質の使用を心掛けます。
- ・グリーン購入の推進。

(8) 化学物質使用量の削減

- ・保管と管理の確認(7月・11月・3月)を定期的に行います。

VII. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社に関連する主な法規制は下表の通りです。
 また、関連法規制の遵守状況確認を毎年2回実施しており、違反はありませんでした。
 地域住民からのクレームもありませんでした。
 同様に関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありませんでした。

主な適用法規	当社の対応	遵守状況
廃棄物処理法 循環型社会形成推進基本法 群馬県環境基本条例 群馬県の生活環境を保全する条例 前橋環境基本条例	廃棄物の削減 廃棄物の適正処置の確保 産業廃棄物保管基準遵守 廃棄物の飛散・流出・地下浸水の防止 産業廃棄物処理委託基準の遵守 産業廃棄物の委託契約書の記載事項の遵守 産業廃棄物管理票の管理義務	遵守確認済
特定家庭用機器再商品化法 (家電リサイクル法)	廃棄時の引き取り業者への 引渡し料金の支払い	本年度廃棄無し
消防法(危険物関連) 前橋市火災予防条例	少量危険物貯蔵所設置の届出 基準在庫管理	基準在庫以下確認 廃止届け提出
容器包装リサイクル法	毎年度、その生産量に応じて 再商品化義務量の再商品化	遵守確認済
下水道法	排水基準の厳守	排水基準量以下 確認
CSR(社会的責任)調達 (取引先企業3社)	エコアクション21に適用	遵守確認済
騒音規制法	特定施設設置届出書の提出	遵守確認済
振動規制法	特定施設設置届出書の提出	遵守確認済
フロン排出抑制法	該当設備を管理者により定期点検 廃棄時の回収業者への引渡し	実施済 本年度廃棄無し

Ⅷ. 代表者による全体評価と見直しの結果

2021年度は新型コロナウイルスが発生して2年目の年でありました。人の動き、経済の動きは停滞しつつもスタンダードを変えながら社会が動いていたように思います。当社の事業活動にも様々な影響がありましたが、昨年のような売り上げの大きな落ち込みはなく、1年を通して比較的安定した生産活動が出来ておりました。

そんな状況での環境活動としましては、今までの活動を継続しつつ、小さな改善を進めてきた感じです。昨年度の業績悪化を受け、大きな設備投資は一旦様子を見る状況でしたが、安全と省力化につながるメンテナンスは計画的に実施することが出来ました。電気設備の更新工事や工場床の改修工事などであります。

売上高の増加でエネルギー使用料は全般的に増加してますが、効率化により削減が達成されているところもあり、評価できます。営業活動の制限で営業車の燃料使用量は引き続き減少しています。また配送体制の見直しによるトラックの使用頻度減少も大きく貢献しています。

廃棄物の削減につきましては生産する品種によって大きく変化してしまいましたが、仕組みづくりからの改善を視野に入れて模索していく必要があります。

何れも部門ごとのリーダーを中心にしたグループ活動や、全員参加による日々の改善活動が進められていることで一定の結果が得られていると感じています。今年も年間を通して計画的な活動を続け、成果を上げられればと思います。

製造過程も含めて「環境にやさしい製品」を作り上げる事が重要であると考えています。

代表取締役社長
池畠 正英